# 日本語教育よくわかる教授法

「コース・デザイン」から
「外国語教授法の史的変遷」まで

小林ミナ

アルク

# 日本語教育よくわかる教授法

「コース・デザイン」から
「外国語教授法の史的変遷」まで

小林ミナ

アルク

◆改訂について

本書はアルクより1998年12月10日に刊行された『日本語教師・分野別マスターシリーズ よくわかる教授法』を改訂し、2010年１月22日に刊行された『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法37』をベースに、新たに加筆・修正し改題したものです。今回の改訂に当たって全体の内容を見直し、各章に実践タスクを加えました。

# はじめに

「日本語教える」という行為は、「何を教えるか」と「どう教えるか」という二つの側面に分けて考えることができます。本書では、特に「どう教えるか」について、その全体像と個別の内容を分かりやすく記述することを目指しました。

本書は、全5章で構成されています。

1章ではコース・デザインの基本的な流れを紹介しました。「日本語教師ってどんな仕事なのだろう」と思う方には、この1章が、仕事の範囲やおおよその内容を理解するのに役立つものと思います。2章以下では、実際に日本語を教えるための手段や知っておく有益な知識を取り上げ、説明しました。各章は、それぞれ独立した内容になっていますので、はじめから順番にではなく、興味や関心がある章から読んでいただいて構いません。

本書は日本語教師を志して勉強を始めたばかりの方や、日本語教育能力検定試験の合格を目指して勉強中の方だけでなく、すでに日本語教師として教えていらっしゃる方が、これまでに学んだ知識や用語を整理したり、日々行っている教育実践を改めて見直したりする際の、手近な参考書としても使っていただけるような内容を目指しました。また、「国際交流関係の仕事をしている」「周囲に日本語を学んでいる外国人の友人がいる」など、自分が日本語を教えるというわけではないけれど、日本語教育という世界に関心がある、どんなものか知りたいという方には、その概略を知っていただけるものと思います。

用語の定義は、主に次の5冊を参考にしました。


1. 日本語教育学会編（1991）『日本語教育機関におけるコース・デザイン』凡人社
2. 日本語教育学会編（1990）『日本語教育ハンドブック』大修館書店
3. 田中望著（1988）『日本語教育の方法—コース・デザインの実際』大修館書店
4. Crystal, D. (1997) A Dictionary of Linguistics and Phonetics (4th edition),

Oxford: Blackwell.
5. Richards, J. C. et al. (1992) Longman Dictionary of language teaching & applied linguistics (2nd edition), Essex: Longman.

用語の使い方に違いがみられる場合は、より一般的な解釈であること、本書の中で一貫していること、直感的に分かりやすいこと、の3点を考慮して規定しました。

この分野に限ったことではありませんが、用語の定義やカバーする範囲には、往々にして違いがみられます。本書から一例を挙げれば、「コース・シラバス」というのは、「コースで学習する項目の一覧表」という意味ですが、その定義には、「項目がコースで教えられる順序で並んでいる」というところまで含む場合と、「五十音順でも何でも項目の並び方はどうでもいい」とする場合の二つの立場がみられます。そこで、用語に複数の定義がみられる場合は、できるだけ諸説を取り上げ、その違いを説明するように努めました。用語とその意味するところを理解するには、ただ丸暗記するのでなく、背後にある理念や異なる定義が生み出された背景を知ることが大切です。そして、「○○という用語は、参考書Aではこういう意味だけど、参考書Bではより広い意味で使われているようだ」というように解釈できるようになることが、より深い立体的な理解にもつながります。本書の記述が、そのための一助になれば幸いです。

著者

# 目　次

3 ── はじめに

9 ── 第1章 コース・デザインを理解する

10 ── 1 コース・デザインとは何か
「日本語教師」という仕事／コース・デザインの重要性／コース・デザインは誰の仕事か／コース・デザインの流れ

15 ── 2 ニーズ分析
ニーズ調査／ニーズ調査の対象／ニーズ調査の方法／レディネス調査／言語学習適性調査／学習条件調査／ニーズ調査≠ニーズ分析

25 ── 3 目標言語調査
実態調査／意識調査／教師の内省／言語資料の特徴と限界／母語場面と接触場面

31 ── 4 言語資料分析
語彙リスト／基本語彙／基礎語彙／言語資料分析の観点

34 ── 5 シラバス・デザイン
原型シラバス／コース・シラバス／構造シラバス／機能シラバス／場面シラバス／タスク・シラバス／スキル・シラバス／トピック・シラバス／折衷シラバス／先行シラバスと後行シラバス／プロセス・シラバス

40 ── 6 カリキュラム・デザイン
到達目標／時間割／シラバス項目の配列／教授法／教材と教具／教育実践と効果測定／第1章のまとめ

47 ── 第2章 教室活動

48 ── 7 教室活動とは
「授業」という時間、「教室」という空間

50 ── 8 言語技能と教室活動
言語技能とは何か／産出技能のための教室活動「話す・書く」／受容技能のための教室活動「聞く・読む」

54 ── 9 「話す」ための教室活動
会話と独話／正確に話す／ドリルとキューの選択／適切に話す／インフォメーション・ギャップ／インタビュー・タスク／ロール・プレイ

66 ── 10 「書く」ための教室活動
文字を書くための教育／表音文字・表意文字／漢字圏学習者・非漢字圏学習者／漢字の提出数／文章を書くための教育／作文の指示／文章

の目的や読み手の特定／文末スタイルの使い分け／文末スタイルと
用形

76 ―― 11 「聞く」ための教室活動
スキャニング／スキミング／こまか聞き取り

80 ―― 12 「読む」ための教室活動
スキャニング／スキミング／精読

83 ―― 13 統合的な教室活動
シミュレーション／プロジェクト・ワーク／反転授業／アクティブ
ラーニング／第２章のまとめ

91 ―― 第3章 教材・教具

92 ―― 14 「教材」と「教具」
「教材・教具」とは何か

94 ―― 15 「教材・教具」を選ぶ
主教材と副教材／「教科書を選ぶ」とは？

97 ―― 16 「教科書」について理解する
教科書のメリット・デメリット／「良い教科書かどうか」を決めるもの

99 ―― 17 いろいろな教材について知る
モジュール型教材／生教材／視聴覚教材／コンピューター教材

102 ―― 18 教具を知って使いこなす
文字カード／フラッシュ・カード／五十音図／レアリア／絵カード

109 ―― 19 「教材・教具」を作る
柔軟に考える／著作権に注意／第３章のまとめ

115 ―― 第4章 評価する

116 ―― 20 日本語教育と評価
「評価の主体」「評価の対象」

118 ―― 21 教師が評価する
①教師が学習者を評価する／②教師が教師を評価する／③教師が教育
機関を評価する

120 ―― 22 学習者が評価する
④学習者が学習者を評価する／⑤学習者が教師を評価する／⑥学習者
が教育機関を評価する

122 ―― 23 教育機関が評価する
⑦教育機関が学習者を評価する／⑧教育機関が教師を評価する／⑨教
育機関が教育機関を評価する

24 — 24 評価の目的
選抜的評価／診断的評価／言語学習適性テスト／形成的評価／総括的評価

28 — 25 日本語教育とテスト
到達度テスト／熟達度テスト／日本語能力試験（JLPT）／日本留学試験（EJU）／OPI

33 — 26 主観テストと客観テスト
インタビュー・テスト／文章産出テスト／主観テストの特徴／客観テスト／多肢選択法／単純再生法／真偽法／組み合わせ法／空所補充法／クローズ・テスト

42 — 27 テスト結果の処理
素点／標準偏差／偏差値／S-P表

46 — 28 テストの評価
信頼性／妥当性／客観性／実用性／第4章のまとめ

53 — 第5章 外国語教授法の歴史を知る

54 — 29 外国語教授法の三つの側面

55 — 30 外国語教授法の流れ

59 — 31 人々の往来とコミュニケーションの変化
ナチュラル・メソッド／グアン式教授法／ベルリッツ・メソッド／フォネティック・メソッド／オーラル・メソッド／直接法／媒介語の使用と直接法

63 — 32 関連領域と外国語教授法
構造言語学に理論的基盤を置く教授法／AL法の二通りの意味／心理学や認知学習理論に理論的基盤を置く教授法

70 — 33 コミュニカティブ・アプローチの出現
概念シラバス／コミュニケーション能力／JGPとJSP／コミュニカティブ・アプローチとAL法

74 — 34「言語」と「内容」を切り離さない
イマージョン・プログラム／内容重視の言語教育／「言語と内容を切り離す」とは？

76 — 35 外国語教授法の変遷から何を学ぶか
指導技術を学ぶ／教具を利用する／教師の分業／コミュニティの成立／精神や考え方を学ぶ／第5章のまとめ

184 — 読書案内

186 — 索引

第1章

# コース・デザインを理解する

□「日本語教師」に必要な「知識」は何かを考えましょう

□ コース・デザインの諸要素を理解しましょう

□ コース・デザインの全体像を理解しましょう